

供覧・決裁

議長 副議長 局長 課長 課長補佐 係長



令和3年 12月 6日

丹波篠山市議会議長 様

会派名

代表者名

又は会派無所属議員の氏名 向井 千尋

政務活動報告書

この度の政務活動を下記のとおり報告します。

記

- 活動の種類: 視察調査 ・ 研修 ・ 広報広聴活動
その他 ()
- 活動期間: ①令和3年11月16日(火) 13時30分~15時
②令和3年11月26日(金) 10時30分~15時
- 場所: ①加東市役所4階相談室
②明石市みつばこども園
明石市役所
- 活動者: 向井 千尋
- 活動の概要: 子育て施策に関する調査
- 考察: 別紙参照
- 活動に要した費用:

費目	詳細	金額	備考
視察調査費	交通費	8,188	①丹波篠山市役所~加東市役所 (車賃) 32.3km×2×40円 ②丹波篠山市役所~明石市役所 ~みつばこども園~丹波篠山市 役所(車賃) (67.6km + 7.3km + 65.2km) × 40円
	その他	9,040	手土産代@3,000×2、3040円

政務活動調査研究報告書

報告者	向井千尋
日時	令和3年11月16日(火) 13時30分～15時
調査研究名	加東市の子育て支援の取組みについて
開催場所	加東市市役所4階相談室
内容	<p> <u>氏(加東市役所教育委員会こども未来部副課長)</u> <u>氏(加東市役所教育委員会こども未来部主査)</u> <u>(加東市役所教育委員会こども未来部)</u> </p> <p> *加東市の沿革について 人口40374人、世帯数17514世帯、面積157.55㎢ H18年に社町、滝野町、東条町が合併して誕生した。東西に中国縦貫自動車道が走り、2つのインターチェンジがあり、国道175号と372号があるなど物流の拠点である。 </p> <p> 向井：丹波篠山市と人口規模は同等、面積は約半分、近年合計特殊出生率が微増している。県内でも合計特殊出生率が高く(第5位)でかつ増えているのは、南淡路市、加東市、播磨町などである。その理由が何かあるのか？ </p> <p> <u>氏</u>：丹波篠山市の方が子育て支援にはいろいろ取り組んでおられる。特別なことはしていない。保育料なども国の基準と変わらない。明石市のような取組みもしていない。(笑) </p> <p> <u>氏</u>：インターが近い、通勤しやすい、南山、滝野、社に工業団地がある、大阪神戸まで1時間、地理的に便利なところである。若い世帯が住みやすいハイツなどの比較的安い住宅が多くある。(建っている)若い人が結婚して、マイホームを購入するまでの仮住まい的な住宅が多いように思う。こどもが小学生に上がったら一戸建てを買おうか、という人も増えているように思う。 </p> <p> 向井：人口規模が同じで、こども未来部を作った経過は？ </p> <p> <u>氏</u>：平成30年に、こども未来部ができた。教育委員会は教育振興部とこども未来部に分かれており、教育振興部が教育総務課と生涯学習課で、こども未来部は小中一貫教育課、学校教育課、こども教育課などである。 </p> <p> 向井：子どもに関する窓口が一本化しているのか？ </p> <p> <u>氏</u>：保育、教育については一本化しているが、母子保健関係や児童手当などの事務的な窓口は社会福祉課や健康課が担当している。そういう意味 </p>

	<p>では丹波篠山市と変わらないのではないかと思います。</p> <p>向井：幼保一体化についてはどのようにされているのか。</p> <p>■：現在、公立のこども園2、私立のこども園10、保育所は公立1、私立3で、幼稚園はない。平成27年に認定こども園の制度ができて移行していった。</p> <p>向井：私立のこども園が多いのは、何か歴史があるのか。</p> <p>■：元々旧町の地区で保育所があった。自分たちで運営されていた経過はあり、それぞれの歴史がある。こども園制度ができて移行していった。</p> <p>向井：園舎の建設年はどうか。</p> <p>■：どの施設も新しい。こども園になって国県の補助があり、それにプラスして市が補助を出しているので、どこの施設も新しくきれいにされている。私立なので、いい意味で競争ということもある。それぞれの特色を出して工夫して取り組んでおられると思う。</p> <p>向井：保育士の確保など、市として何か応援しているのか。</p> <p>■：就職フェアをしている。大学や専門学校に出向き広報している。去年はコロナで開催できなかつたり、今年も少なかつたが、例年なら20名くらいはフェアに学生さんが来られる。一昨年は7名の採用が決まった。兵教大とも連携している。大学の存在は大きい。</p> <p>向井：保育士の質の向上のための研修などには行っているのか。</p> <p>■：月1回園長会議を行っている。キャリアアップ研修を行っている。各園でも研修を行っておられる。</p>
<p>考察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元兵教大の■教授（幼児教育、子育て支援）の紹介によりこの視察を行った。人口規模としては小さな町でありながら教育や子育て支援に注力し、こども部を創出しており、兵教大とも連携している、とのこと。 ・本市との比較対象としては人口規模が同等なのでわかりやすい。 ・認定こども園については、民間との協働での運営がうまくいっており、大変理想的であると思った。 ・現在、小中連携を進めており、今後も注視していきたい。

政務活動調査研究報告書

報告者	向井千尋
日時	令和3年11月26日(金)10時30分～12時
調査研究名	明石市の子育て支援について
開催場所	みつばこども園(明石市大久保町)
内容	<p>■■■■氏(社会福祉法人みつくす園長)</p> <p>問：幼保連携型認定こども園みつばこども園とNPO法人みつくすについて沿革と立ち上げられたきっかけは何か</p> <p>答：きっかけは、自分自身が子育てしている経験で、明石市には3歳児を受け入れる保育施設が少なかったため、わが子が友だちを作れるきっかけが欲しくてサークルを立ち上げた。(2000年頃)その後、子育てサークルみつくすからNPO法人にした。(2008年)法人では、地域での子育て支援、保護者の悩みの相談やつながりづくりを行っている。明石市のパイロット事業として3歳児保育事業を3年間実施した。現在は、小学生の放課後の居場所づくりや地域の子どもから高齢者までだれもが気軽に集える場づくりを行っている。0歳から12歳までの子どもの支援を行っている。幼保連携型認定こども園みつばこども園は平成27年4月に設立された明石市初の認定こども園。わどほの保育＝わくわく・どきどき・ほっとな保育を行っている。</p> <p>問：明石市は子育て先進地として人口も増加しているし、全国的にも注目されているが、現場におられる側からどんなふうに感じているか。</p> <p>答：■■市長の市政については、長所、短所あると思う。先進的に取り組んで頂いている施策も多くあるが、例えば、待機児童については、明石市は大変多い状態で、その原因としては第2子からの完全無償化により、0歳から子どもを預けたい保護者は増えている。また、待機児童解消のために市がいろんな事業者がこども園を設立要請しているが、質の問題がある。数を増やせば良いというわけではない。</p> <p>また、子ども子育て会議が開かれていない。開かれているのかもしれないが、公立の園の関係者のみで、私立の園関係者は、幼保施策について意見を述べる場がない。</p> <p>問：園の中で大切にされていることは何か。</p> <p>答：認定こども園という事業とNPO法人という2つの事業を運営しているが、0歳から12歳までのトータルな子育て支援を目指している。親どうしのつながりに留まらず、地域のあらゆる世代との交流が子育てに大切で</p>

	<p>ある。この地域は他の地域から引っ越しされてきた方も多いため、それからの方々とのつながりづくりが必要である。</p> <p>また、認定こども園では、食育や自然との触れ合いなどを大切にしている。0歳から5歳までのトータルな保育の場は、子どもにとってはとても大切。また3歳児からの1号認定も実施している。半分程の園児は1時半には帰宅する。</p> <p>保護者がそれぞれに望む子育てを支援していきたい。無償だから預けなければ、というようなことには疑問を感じる。在宅で子育てしたい保護者もある。1号認定や1時預かりなどの支援が重要だと思う。</p> <p>問:今の課題やこれからの希望などについてはどうか。</p> <p>答:保育士のをどう育てていくのかが課題である。園の理念やめざしたい保育がある。例えばクリスマスのデイズプレイにしても100均で売っているものでもそれなりに見えるが、そのような教材は使いたくない。保育士の教育が大切だと思う。</p> <p>また、今後、明石市も人口減はおこると思うが、今も、続々と新設のこども園が設立されている。後々には必要なくなる時があるが、そのことを行政は考えているのか。許認可した市の責任はないのか、と疑問に思う。</p>
<p>考察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地の明石市で、初めて認定こども園を創設された■■園長は、とてもおらかで、情熱的な方でした。約2時間、ご自身の保育論や明石市の子育て施策について、マスコミなどには知らされていない情報を知ることができました。 ・0歳から12歳までのトータルな子育て支援を認定こども園とNPO法人という2つの事業を展開されていることは、大変素晴らしいと思います。 ・本市においても、こども園のあり方や、社会福祉法人での運営方法の研究などが必要であると思いました。

政務活動調査研究報告書

報告者	向井千尋
日時	令和3年11月26日(金) 14時～15時
調査研究名	明石市の子育て支援について
開催場所	明石市役所(明石市大明石町)
内容	<p>■■■■氏(明石市役所こども局子育て支援室子育て支援課長)</p> <p>■■■■氏(明石市こども局こども育成室企画担当課長)</p> <p>問：明石市の地域での子育て支援の取組みと幼保一体化についての計画について聞きたい。</p> <p>■■■■：明石市では市役所にこども局、駅前のパピオスに第2課を置き、パピオスでは主に母子保健事業、産後ケアの事業や子育てセンターを置いている。</p> <p>平成29年度に市と出資金と民間からの寄付金で明石こども財団を設立した。地域の子育て支援推進のために人材育成、ネットワーク作り、地域支援活動などを行っている。こども食堂や放課後のこどもの居場所づくりや最近ではパイロット事業として不登校児へのフリースクールのような役割も果たしている。</p> <p>問：運営の課題は何か。</p> <p>答：コロナ禍で居場所づくりなどは停滞している。ボランティアの高齢化など継続のための支援が必要である。</p> <p>問：幼保一体化について</p> <p>答：明石市では、公立小学校に併設されている幼稚園をこども園に移行する計画を進めてきたが、令和4年度から3歳児の1号と2号認定を受け入れる事業を開始する。計画時では、園児の数や少なくなっていく予想であったが、予想外に増えたことにより、計画を見直すことになった。</p>
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所には「戻りたいまちランキング1位」「中核市人口増加率1位」の大きな垂れ幕が掲げられており、■■■■市長の掲げる「こどもを中心にしたまちづくり」を大きくPRされていることがよくわかった。 ・こども局として、こどもに関する所管をひとつに集約して、ところ狭しと各課の職員たちが業務に当たられていた姿が印象的でした。 ・待機児童の対策としての幼稚園主導のこども園化の新事業は中核市である明石市であるからこそ取り組める政策であるが、ニーズと合っていると思う。

[領収書]
茶遊葉楽 諏訪園 篠山店
兵庫県丹波篠山市
二階町39
TEL:0795526308

2021/11/16 11:11:31
レジ:0002 担当:-
伝票名:伝票00020188
取引No:000220211116110901799

*のづらづみ		
¥3,040	1点	¥3,040

小計	1点	¥3,040
合計		¥3,040
(8%軽減対象)		¥3,040
現金		¥5,040
お預り		¥5,040
お釣り		¥2,000

*印は軽減税率(8%)適用商品

上記正に領収いたしました

領収書

同社 竹野様

¥6,000-

No. 000001-1008-0535

2021年11月25日

消費税
(内税) 444円を含む。
444円)

(内税 8%対象額 ¥6,000 内税額 8% ¥444)

但し、

支払内訳
現金 ¥6,000
(内消費税等 ¥444)

として上記正に領収いたしました。



特産館
竹野

丹波ささやま農業協同組合
兵庫県篠山市黒岡70-1

※印紙等にはきんで保管置く場合は、
印刷面を内側に折り保管をお願いします。